

本当に活るの!

大丈夫なの!

受けたらいいの!

# 乳がん 安心 BOOK

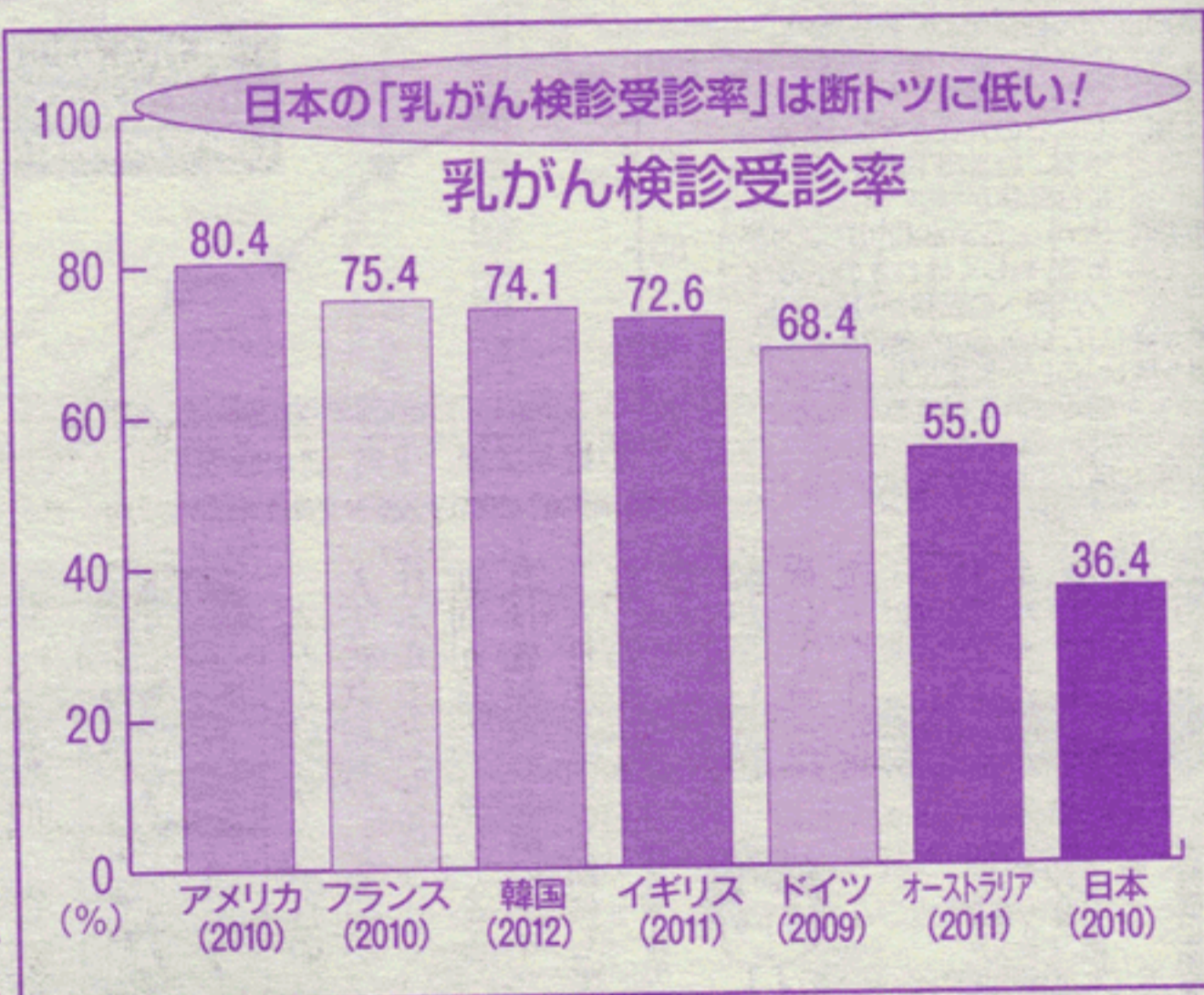


そのギモン・不安に  
ズバリお答えします

「北斗晶さんのニュースを見て、他人事とは思えなくなりました」と、いま乳がん検診の希望者が医療機関に殺到しているそう。「検診は2年に1回では少ない?」「おすすめの検診施設は?」「どんな場合は温存できるの?」など、意外と知らない乳がんの検診と治療について詳しくご紹介します!

「当院にも、検診の問い合わせが多数あります。これをきっかけに、乳がんへの関心が高まってほしい」と言うのは

監修の島田菜穂子先生。乳がんの発症は35歳から増え始め40~50代でピークに。年間9万人もがかかる女性にもっと



出典: OECD, OECD Health Data 2013, June 2013

※カッターやハガキなどの厚手の紙で切り開いてお読みください。

紹介します!

「乳がんの怖さが再認識されている今、知っておくべき早期発見のコツと最新知識をご紹介します!

「乳がんは子育て世代を直撃する病気。仕事も忙しく、検診もつい、あと回しにしがちです。でも、検診に行かないとどうなるか? がんが見つかったときにはすでに進行していて、子育ても仕事もままならなくなる——というケースが少なくないのです」(島田先生)

も多いがんです。早期に見つければ治療率が高いのですが、上のグラフのように、日本は欧米などに比べて検診率が低いことが問題です。

## お話をうかがったのは



島田菜穂子先生

ピンクリボンプレストケアクリニック表参道院長。乳腺科・放射線科医師。筑波大学医学専門学群卒業。東京通信病院院長、イーク丸の内副院長を経て現職。マンモグラフィ認定医(A判定)。NPO法人乳房健康研究会・副理事長。乳腺診療とピンクリボン運動を通じて、乳がんの啓発活動に尽力している。